

## 21世紀アカデミア 専門学校大阪ビジネス・アカデミー 学校関係者評価委員会 議事録

作成者	専門学校大阪ビジネス・アカデミー 村松 伸哉	
日時	2024年7月26日(金) 17:00~18:00	
場所	専門学校大阪ビジネス・アカデミー 4階 406教室	
司会者	専門学校大阪ビジネス・アカデミー 井上和美	
出席者(敬称略)	<b>学 校 評 価 委 員</b>	
	エイチエスエス合同会社 橋本 高志様	マックススポーツ株式会社 小柴 昌弘様
	イオンリテール株式会社 川瀬 博之様	株式会社 夢現社 山本 真弘様
	株式会社ジャヴァコーポレーション 白倉 亮一様	有限会社 PURENESS 岡 真由美様
	株式会社玉屋 澤原 真佐代様	学校法人Adachi学園 保護者 森本 博士様
	<b>学 校 教 職 員</b>	
	専門学校大阪ビジネス・アカデミー	古賀啓介学校長、井上和美学務実務責任者、古谷征司総合事務局長、村松伸哉事務長 比嘉淳之、紀大介、木山千佳、櫛間文絵、山脇千穂、中川綾、辻本清華、安田妃那、河野夕輝
以上計21名		

議題	・職業実践専門課程において、自己評価をはじめとした学校評価を通じた専修学校教育の質保証・向上に関する取組みについて
	・平成30年3月「専修学校における学校評価ガイドライン」が専修学校の質保証・向上に関する調査研究協力者会議の審議を得て策定され、そのガイドラインを参考にAdachi学園各校の「自己点検・自己報告書」を作成し、それに沿って各校関係者の皆様より評価をしていただく。
	カリキュラムへ反映し教育効果向上を目指し、成果として効果測定を行う。

会議進行状況	①挨拶 司会者、局長、教職員挨拶
	その後、学校関係者皆様よりお一人ずつご挨拶
	②各校の総括と基準1「教育理念・目的・育成人材等」、学校長よりご説明
	学校関係者の皆様より評価
	③専門学校大阪ビジネス・アカデミーの資料を基に、基準2「学校運営」を司会者・井上よりご説明
	学校関係者の皆様より評価
④基準3「教育活動」、学校長より各学科のご説明	
学校関係者の皆様より評価	

会議進行状況	⑤基準4「教育成果」を司会者・井上よりご説明
	学校関係者の皆様より評価
	⑥基準5「学生支援」を司会者・井上よりご説明
	学校関係者の皆様より評価
	⑦基準6「教育環境」を司会者・井上よりご説明
	学校関係者の皆様より評価
	⑧基準7「学生の募集と受け入れ」を司会者・井上よりご説明
	学校関係者の皆様より評価
	⑨基準8「財務」を司会者・井上よりご説明
	学校関係者の皆様より評価
	⑩基準9「法令等の遵守」を司会者・井上よりご説明
学校関係者の皆様より評価	
⑪質疑応答	ご質問等は特にありませんでした。

今後の課題と改善点	基準3「教育活動」については、学園において教育本部ごとで精査し教育展開をするの方針へ移行。学科の商品力を高め学生の満足度を向上させるプログラムを試験的に導入。「5つの人間関係力」と「5つのプロフェSSIONAL力」をアカデメイアメソッドを通じながら体得していく。
	基準4「教育効果」については、「資格以上の付加価値を！」をスローガンに学校全体の強化を図る。具体的には就職活動や業界デビューの際に各種資格取得を実行した事で得られる苦労や努力を経ての経験値や自信に繋がっているストーリーを個人の強みとしてアピール出来る様、全学で具現化する。
	基準5「学生支援」については、学生の継続率や脱落率、進級率は毎年の課題である。年々精神疾患による個別でのフォローが必要なケースも増加。家庭の事情や学生自身の心の問題も多い。これらの課題に対し学内カウンセリングの体制と地区カウンセラーの併用を導入する。
	基準6「教育環境」については、インターンシップや業界体験をコロナウイルス感染前の正常モードに完全移行する。とは言え、業界によってあらたなネット対応も強化された為、学校指導においてキャリアセンターを中心に柔軟な対応と対策を取り入れて行く計画である。(年間スケジュールに反映)
	基準6「教育環境」については、昨年に引き続き、産学連携の実績作りと資格検定の実績作りに注力する。社会的評価も考慮しその上で、まだ不安定な学科や科目に対し即戦力の補充を以て学校対応をする。全体の底上げは今季も継続する。学科担当者の関わりの中で強化していきたい。
	基準6「教育環境」については、段階的に取り組む。建物の老朽化に伴う「雨漏り対策」や「環境美化・美装」や「建物・修繕」を中心に景観にも配慮しながら教育環境の水準向上を目指す。具体的には「冷暖房の劣化に伴う更新作業」はじめ、「PC環境のバリエーション(ノート型導入)」等、環境整備をしていく。
	基準7「学生募集と受け入れ」については、ハイブリットスタイルも視野に授業展開を計画中。オンライン(LIVE)を常用し、よりリアルな教育と産学と現場を結ぶ「生きた授業内容(実践型)」を検討する。学びの多様性についても通信制の学生や留学生の受け入れについて柔軟に現場対応する。(留学生の常勤採用)
基準7「学生募集と受け入れ」については、学園の強化学科である「総合ビジネス学科」の差別化と商品力の見直しを期末ごとに図る。就職早期の学科故、学生の興味がある「IT分野」、「情報を商材を扱う業種」、「仮想空間に関する分野」にもキャリアセンターと連携、新規開拓を図る。広報展開も要。	

次回の予定	2025年7月以降予定
-------	-------------

以上